

キヤノン株式会社

2021年第1四半期 決算説明会【主なQ&A要約】

Q1. 3月に開催された経営方針説明会では来期から徐々に増配したいという説明があったが、今決算で増配を発表した経緯を教えて欲しい。方針変更があったのか。

A1. 配当額を決める際、単年度の業績だけではなく中長期的な業績の推移、キャッシュフローの水準などを勘案するという基本方針に変更はない。経営方針説明会では今年度の増配は難しいとお話したものの、最新見通しを上方修正したこともあり、今回の決定に踏み切った。

Q2. メディカルは、第1四半期は好調に推移したが、第2四半期以降について利益水準を慎重に見ているということはないか。在庫水準についても、見通しを教えて欲しい。

A2. 第1四半期は、国内を中心に補正予算による医療機関の機器購入の動きがあり、大変好調に推移した。医療機関も補正予算が付くとは言え不要なものを購入することはなく、大幅な反動減が起こることはないと思われるものの、第2四半期以降は第1四半期と同水準の高い利益率が続くとは考えにくい。メディカルの在庫見通しについては、設置が順調に進めば現在の在庫水準から大きく変動することはない。

Q3. インクジェットは、第1四半期好調だったが、オフィス向けとホーム向けそれぞれの見通しを教えて欲しい。またホーム向けについては、価格競争が起きる懸念はあるか。

A3. インクジェットについては、オフィス向けとホーム向けに分けて業績管理をしていないが、第1四半期は主にホーム向けが売上を牽引したと分析している。足元では、バックオーダーが出るほど需要が強く、価格競争は起きていない。このような状況が長く続くとは考えにくく、年度後半はインクジェットの価格リスクを今回公表に織り込んでいる。

Q4. リスク要因として、原材料や半導体などのコストアップや物流のひっ迫を挙げていたが、製品別に見て影響が大きいセグメントがあれば教えて欲しい。

A4. 当社製品の大半に半導体部品は使われており、どのビジネスユニットにも影響がある。各半導体メーカーは最大限不足を解消すべく努力しており、当社も設計変更や転注をかけるなどして対策を講じている。最新見通しでは第3四半期までは供給不足の影響が残ると見ているが、年末までには解消したいと考えている。

キヤノン株式会社

2021 年第 1 四半期 決算説明会【主な Q&A 要約】

- Q5.** 年間公表の通期利益見通しを元に計算すると各四半期の営業利益は 400 億円程度となる。第 2 四半期以降、利益推移をどう見ているか。
- A5.** 第 1 四半期は、例外的に利益率が高かった。理由としては、一部の製品でバックオーダーが出ており、販売経費を抑えながら値下げもせずに販売ができたことが挙げられる。第 2 四半期以降は、拡販経費および成長投資を見込んでいることに加え、半導体を中心とする部材の供給不足や物流ひっ迫の影響を考慮すると、第 1 四半期と同水準の利益率を見込むのは難しい。年間見通しにはある程度そのリスク要因を織り込んだ。

本資料で記述されている業績見通し並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。